

令和元年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492400021	事業の開始年月日	平成18年9月1日
		指定年月日	平成18年9月1日
法人名	株式会社 へいあん		
事業所名	グループホーム「へいあん小和田」		
所在地	(〒253-0012) 神奈川県茅ヶ崎市小和田3-3-25		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和元年12月1日	評価結果 市町村受理日	令和2年3月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ご入居者様、お一人お一人に合わせた支援方法を見出し、安心して過ごせるための、安らぎの空間をご入居者様とスタッフで作上げていきます。</p> <p>近年、ご入居者様の重度化が顕著となり、スタッフの介護スキル向上、および身体機能が重度化しても安心して生活できる環境づくりに努めています。 看護師・主治医との連携、重介護に対応できる介護用品等、環境面でも重度化に対応できる準備をすすめております。また「看取りケア」体制も整えております。</p>
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和2年2月4日	評価機関 評価決定日	令和2年3月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、JR東海道線辻堂駅より徒歩で15分程の幹線道路から少し入った住宅地に立地している。近隣には郵便局、ペットショップ、スーパーマーケットなどが点在している。木造2階建ての1階に同一法人のデイサービスと居宅介護支援事業所があり、2階に当事業所がある。浴室に機械浴の設備が整い、車椅子対応のトイレや洗面台、エレベーターがある。</p> <p>【身体拘束をしないケアの実践】 玄関の扉は自動式で外に出る時はボタンを押し開錠している。ユニットの扉は開錠している。「身体拘束等適正化のための指針」があり身体拘束・虐待予防・権利擁護の研修をしている。身体拘束適正化委員会を2ヶ月に1度開催している。外に出たい希望やそぶりが見られた時には、職員と一緒に外に出ている。利用者がユニットから階下に降りた時は、階段などに設置したビデオカメラの映像や、1階の玄関前にある事務所で気付けるようにして安全を確保している。</p> <p>【食事を楽しむことのできる支援】 専門業者の献立と食材を基に朝食と夕食は職員が調理し、昼食は法人の調理部門が調理した食品を温めて提供している。正月や桃の節句には、おせちやちらし寿司を提供している。利用者は、食事の盛り付けや下ごしらえをしている。職員は見守りや介助をしながら利用者と同じ食事を一緒にとっている。夏祭りでは法人の調理部門のシェフが調理した料理を提供し、家族などと一緒に食事を楽しんでいる。誕生日は、利用者の希望に応じて出前を取ったり、寿司屋やファミリーレストランで外食するなどしている。</p> <p>【職員の意見の反映】 改善すべき事、不安に思っている事、上司への要望などを記載する「ヒアリングシート」を活用し年2回、個人面談を実施している。職員の意見を反映して、短時間勤務の職員を増員し、基準以上の人員体制にして理念の実践に努めている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム「へいあん小和田」
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と施設開設時にスタッフと掲げた行動指針を唱和し、これにもとづくケアの実践を日々心がけている。	事業所の行動指針、法人の理念を共に玄関や事業所内に掲示し、月曜日の朝の申し送りや、ミーティングの際に唱和するなどして共有している。職員は、「ご家族との絆を大切にします」などの行動指針を実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事等に参加できるよう、地域住民の一人として参加意識をもっている。 夏祭りイベントへ近隣住民に参加頂いている。	本宿自治会に加入し、敬老会や夏祭りに参加したり、回覧板を介して地域の方と交流している。地域の防災訓練に職員が参加している。1階のデイサービスと合同で行う「夏祭り」は近隣にポスティングをして参加を呼び掛け、多数の方と交流している。学童保育の児童や保育園児がデイサービスを訪れた際に見学に行き交流している。アロマや傾聴のボランティアが来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所へ来所される方、電話相談や問い合わせに懇切丁寧に対応し、認知症の理解の一端を担っていると自負している。 今後は、地域介護教室や認知症サポーター研修等にも協力参加		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>外部評価受審後の運営推進会議にて、ご家族アンケートと共に議題としてとりあげている。</p>	<p>自治会副会長、民生委員、地域包括支援センター職員、市担当職員、介護相談員、利用者、家族をメンバーとして、2ヵ月に1度開催している。参加者からの行事案内などの情報を活用している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>市町村とは、利用状況・待機者情報などを毎月報告し、運営推進会議等を通じて連携を密にとっている。</p>	<p>市の高齢福祉介護課の担当職員とは、運営推進会議に来訪した際に意見交換している。また、毎月利用状況や待機者情報を連絡している。市の介護相談員を受け入れている。管理者が、市主催の多職種連携や感染症などの研修に参加している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待に対するコンプライアンスルールを掲示し、これを実践している。 身体拘束に対する研修実施やマニュアル整備などを通じて、スタッフへ周知している。	玄関の扉は自動式で外に出る時はボタンを押し開錠している。ユニットの扉は開錠している。「身体拘束等適正化のための指針」があり身体拘束・虐待予防・権利擁護の研修をしている。身体拘束適正化委員会を2カ月に1度開催している。外に出たい希望やそぶりが見られた時には、職員と一緒に外に出ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年二回、身体拘束虐待予防について内部研修計画を立案し、これを実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年一回、上記同様。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は、十分な説明を行い、疑問・不安等を解消している。また、契約書改定、重要事項説明書改正の際には、家族会を開催し、説明・同意を得ている。		

10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等を開催。その際に要望等迅速に応えている。	利用者の日常の様子は、家族が来訪した際や「便り」で伝えている。年1度の家族会や来訪時、電話連絡の際に家族から意見を聞いている。「車椅子の利用時間が長いのでは」という意見に対し、カンファレンスで検討して介護計画を変更した事例がある。	
----	---	---	--------------------------	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一度のスタッフ面談、月一回の管理者会議を通じて、職員の声を引き出し運営に反映させている。	改善すべき事、不安に思っている事、上司への要望などを記載する「ヒアリングシート」を活用して年2回、個人面談を実施している。職員の意見を反映し、短時間勤務の職員を採用し増員している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上記同様。 半年に一度のスタッフ面談を通じて、業務評価を行い、左記の内容についてスタッフ評価・意識付け等を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別研修計画を作成し、年間の内部研修計画を通じて教育を実施。また、新人に対するOJTにおいては日誌やチェックシートを活用。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協会や茅ヶ崎市地域密着部会に所属し、研修等を通じて左記の取組みを実施。また法人内施設において隔月のミーティングを通じた交流、情報交換、業務改善会議を実施。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	左記内容についてアセスメントを行い、ミーティングにて情報共有を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始前に、管理者と計画作成者がインテーク利用者視点で相談対応、情報共有に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	左記の視点に立って、ケア方針を作成。ケアプランに反映させ支援実施。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「家族との絆を大切にする」を行動指針に盛り込んでいる通り、これを意識し実践している。 ※状況報告書をご家族に送付		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に馴染みの物を置いてもらうなど、入居によりそれまでの人間関係が途切れないように配慮。 リロケーションダメージの緩和に努めている。	毎週訪れる家族はいるが近年は友人などの訪問はない。外食などに家族と出かけている。馴染みのスーパーマーケットへの買物などの継続支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係はケアの大きな要素であると認識し、日常の支援において配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣でお会いした時や来所された際は、歓談している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	左記内容についてアセスメントを行い、ミーティングにて情報共有を行っている。	アセスメントや雑談などの中で利用者の思いなどを把握している。利用者が言葉で意向を伝えられない場合は、家族からの情報や利用者の表情、行動などから思いを推し測り検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	左記内容についてアセスメントを行い、ミーティングにて情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	左記内容についてアセスメントを行い、ミーティングにて情報共有を行っている。 必要時には、毎朝の申し送り時に小カンファレンスを実施。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフによるモニタリング記録を合わせてケアプラン作成に活用している。	介護計画の目標を記したモニタリングシートに、利用者の担当職員が実施状況を記録している。それを基に計画作成担当者などが毎月モニタリングをしている。6ヵ月で介護計画を見直し状態に変化があった時は、随時見直している。家族や看護師などの意見を反映し介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別サービス日誌を記載し、左記内容に取り組んでいる。 細かな情報共有は申し送りノートに記載しスタッフ間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループの社内資源も活用し、左記の内容に取り組んでいる。基本的には自宅にいらっしゃる時と同じようにニーズに対応出来る事を旨としている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別に外出支援を実施し左記に取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当グループホームとして協力連携病院を確保しているが、これにとらわれず、病院受診はご本人・ご家族の要望に応じて対応している。	かかりつけ医の選択が出来る。現在は利用者全員が、協力医療機関の往診を月2回受けている。歯科の協力医には、必要時に往診を依頼している。専門科への通院支援は原則家族が行い、家族の連絡を受けて受診結果を支援経過記録に残し共有している。看護職員が週に1度勤務している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人事業部内看護師・医療連携看護師との連携を図り、医療的な視点でのケアと観察を実施し、介護スタッフと情報共有を図り、必要な医療的アドバイスを受けている。看護師による看取り研修も実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も病棟へ出向き、担当医師・看護師より病状把握や退院支援に対応している。また、入院加療において必要な生活情報・身体情報を家族同意を得て行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針を作成し、これに基づき左記に対応している。 看護師による看取り研修も実施している。	入居時に「重度化した場合における対応に関する指針」と「看取りに関する指針」を家族などに説明し、事業所の方針を共有している。主治医などによる終末期の判断があった際は、改めて希望を確認し同意に基づき看取りを実施している。この3年間で3名の看取りを経験している。看護師を配置し、職員が看取りの経験を基に、写真や動画を取り入れた資料を作成して研修を行い、体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	採用時研修において、救急対応・心肺蘇生等のスキルが身に付くよう研修メニューに取り入れている。 また、毎月のミーティングの際にCPR訓練を実施している。		

35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>基本的には、年2回避難訓練等を実施。 法人全体の取組として施設防火チェックを年4回実施。</p>	<p>6月の日中訓練は、運営推進会議を活用し、1階のデイサービスと協力して行っている。9月に大地震災害訓練を実施した。今年2月に夜間を想定した避難訓練を予定している。年4回施設防火チェックを実施している。自治会主催の安否確認訓練や防災訓練に参加して災害時に備えている。非常用備蓄は、飲料水、食料を3日分確保し、カセットコンロ、スピーカーなどを準備している。防災用具や備蓄品は法人が管理し、消費期限などに応じて入れ替えている。</p>	<p>非常災害時に近隣の住民に協力してもらえる体制の構築に向けて、継続して働き掛けることを期待します。</p>
----	----	--	---	--	---

外部評価	項目	自己評価	外部評価		
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コンプライアンスルールを掲げ、左記内容をスタッフに周知している。	利用者権利擁護指針を掲示して職員に周知している。年間計画を立てて権利擁護、コンプライアンス、個人情報、高齢者への接し方の研修をしている。記録や職員間での情報伝達の際は利用者名をインシヤルに置き換えている。トイレなどにカーテンを設置してプライバシーを損ねないようにしている。居室の鍵は内外の両方から施解錠でき、数名の利用者が夜間に鍵をかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの実践において「傾聴すること」「待つこと」を旨とし、「後追いケア」を行い左記内容が実践できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	上記同上。日々の日課を決まったものにするのではなく、その日その方の状態ペースに合わせて過ごして頂けるよう臨機応変に対応している。 食事時間もその方に合わせた時間で提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みに服を着て頂き、その方の普段着をそれぞれに演出して頂いている。 隔月、訪問理美容にて散髪。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の盛付や後片付けを手伝って頂き、スタッフとお客様が共同作業で食事作りを行っている。</p>	<p>専門業者の献立と食材を基に朝食と夕食は職員が調理し、昼食は法人の調理部門が調理した食品を温めて提供している。正月や桃の節句には、おせちやちらし寿司を提供している。利用者は、食事の盛り付けや下ごしらえをしている。職員は、見守りや介助をしながら利用者と同じ食事を一緒にとっている。誕生日には、利用者の希望に応じて出前を取ったり、寿司屋やファミリーレストランで外食するなどして食事を楽しんでいる。</p>	
----	----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一食ごとに個別に摂取量を記録し、これを観察し健康管理に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方の状態に応じた口腔ケアを実施。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助。紙パンツが必要となった方でも習慣的に出来るだけ、トイレに座って頂き自力排泄ができるようにケアしている。	排泄介助が必要な利用者は、「排泄表」でパターンを把握し、トイレ誘導している。夜間は、厚手のパッドに替えたり体調を考慮してポータブルトイレを使用する時がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に毎朝乳酸菌飲料・牛乳等を提供。その他個別に適宜、プルーン・食物繊維剤などを提供。個別に排便状況を観察しやむを得ない場合は主治医と相談し、緩下剤の処方・調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	体調や生活リズムに合わせて入浴時間を調整している。 入浴を強要、無理強いせず、気持ち良く安心して入浴できるよう個別に創意工夫を行っている。	利用者は概ね3日に1回入浴している。入浴時間は午前と午後に分けている。毎日や2日に1回の入浴などの希望にも応じている。スライドキャッチ式のリフトを設置して利用者全員が浴槽に入る事ができている。入浴を好まない利用者には、無理強いせず声掛けを工夫し促している。エアコンでヒートショック対策をしている。長湯や菖蒲湯などで入浴を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れていたら、居室やソファで横になって頂く。眠れない時はリビングで過ごして頂く等、臨機応変に対応しているが、日常生活の休息リズムにも個別に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬処方の説明書をファイルし服薬情報をスタッフ間で共有。また変薬の際は申し送りノートに記載し情報共有。状態変化についても個別サービス記録に記載し、多職種と共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	左記内容を取り組んだケアプランの作成に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に散歩・買物等の外出支援を実施。 また、屋外歩行が困難な方にもドライブや外気浴などの支援を行っている。	日常的な外出として、近隣のスーパーマーケットやペットショップ、郵便局などへ散歩を兼ねて出かけている。車椅子の利用者も同様に出かけたり外気浴をしている。初詣、江ノ島新水族館、桜や紫陽花などの花見に出かけている。家族と外食などに出かけている方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に相談しながら一部のお客様において能力を勘案し実施。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	左記については、自由に積極的に行ってもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が作成した季節の飾り物などを工夫し、心地よく楽しく過ごせるよう配慮を行っている。スタッフが作成した利用者の似顔絵飾りも大変喜ばれている。	共用空間は大変広く、窓が大きく明るい。冬季は加湿器を設置し、温湿度管理をしている。リビングや廊下の壁面に行事の写真や書道の作品、紙細工を掲示している。庭先などに季節の花を植えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル配置を工夫し、左記について可能な限り配慮を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んで頂き、居室については、極力制約を無くし自由に使ってもらっている。	エアコン、クローゼットが備え付けで、ベッドなどの介護用具は事業所が準備している。照明、桐ダンス、鏡台、仏壇、テレビ、椅子、時計、絨毯、写真など使い慣れたものや好みのものなどを持ち込んでいる。転倒予防のため離床センサーを利用している方がいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目立つように「洗濯場」などを掲示し、自らの役割を演出しやすいように配慮を行っている。		

